

(社) 東洋音楽学会関西支部 支部だより

Newsletter of the Kansai Chapter, Society for Research in Asiatic Music

第 3 4 号 (1999/2/10)

◇定例研究会のご案内◇

●第 192 回定例研究会

と き：1999年3月13日(土) 14:00~17:00

ところ：奈良県新公会堂1階第2会議室 (☎0742-27-2630)

(会場が奈良教育大学から奈良県新公会堂に変更になりました!)

交通： 奈良交通バス(春日大社本殿行)は「公会堂前」下車

奈良交通バス(市内循環)ほか「大仏殿・春日大社前」下車、東へ徒歩2分

近鉄(奈良線・京都線)奈良駅 下車、東へ約2km

JR(関西本線・奈良線)奈良駅下車、東へ約3km

(1) 研究発表：「声明用語と日本音楽」 岩田宗一(大谷大学)

(2) 修二会見学への手引き：「悔過会の声明」 澤田篤子(大阪教育大学)

ひきつづき 18:00~ 奈良二月堂にて修二会見学

(19:00~お松明 19:30~初夜 23:00~走り 1:00~達陀・晨朝)

●第 193 回定例研究会(卒業論文・修士論文・博士論文発表会)

と き：1999年3月30日(火) 14:00~17:00

ところ：国際奈良学セミナーハウス (☎0742-23-5821)

交通：近鉄奈良駅下車徒歩東へ10分または奈良交通市内循環バス「国立博物館前」下車

(1) 卒論「京都・六斎念仏の伝承における問題点の研究」 糸岡葉子(大阪音楽大学)

(2) 卒論「三味線音楽としての小唄」 寺田真由美(神戸大学)

(3) 修論「能囃子の演奏行為について」 北見真智子(神戸大学)

(4) 修論「無声映画上映における和洋合奏の演奏実践」 今田健太郎(大阪大学)

(5) 花会式見学への手引き：「薬師寺の花会式」 久保田敏子

ひきつづき 18:00~ 薬師寺にて花会式見学(19:00~21:30 初夜・半夜)

花会式見学ご希望の方は、人数把握を必要としますので、関西支部事務局へ、3月20日(土)までに葉書でお申し込みください。なお当日は拝観料500円がいます。

東洋音楽学会関西支部第191回定例研究会（日本音楽学会と合同） 1998年11月21日（土）

Marina Roseman (University of Notre Dame)

演題 Shifting landscape: Mediating modernity in the Malaysian rainforest

移り変わる景観——マレーシアの雨林におとづれる近代化を媒介する

Steven Feld (New York University)

演題 Vocal knowledge: a Bosavi acoustemology

声の知識——ボサビの音響認識論

熱帯雨林伝統音楽研究者のアメリカ代表のうち、ふたりが、大阪にやってきた。同じふたりがならんでいるということで思い出されるのは、1984年のアメリカの民族音楽学会の雑誌に特集としてくまれた「比較社会音楽学シンポジウム」である。そこでの中心的な議論は、比較音楽学のアラン・ローマックスを、いかに乗り越えてゆくかということだった。フェルドは、象徴人類学者らしい立場で、ローマックス批判をした。ローマックスによる、音楽構造は社会構造を反映したものであるというみかたの、その素朴さを批判したのであった。そしてローズマンは、霊媒の夢見の事例を紹介しながら、音楽にたいする記号論的なアプローチを展開していた。今回のふたりの講演は、象徴人類学がもっともはなやかであった時代の空気を伝えるものである。

最初にローズマンが報告をおこなった。タイトルは「移り変わる景観」。近代化をふくむ外部社会との関係によって変化してゆかざるをえない熱帯雨林の現在に焦点をあてつつ、人々、土地、アイデンティティの関係の成立を論じるものであった。

ローズマンの問いは、「ひとつの土地はどのようにして、自分たちのものとして印づけられるのか」というもの。ローズマンはもちろん、音楽学者として、パフォーマンスそしてそこに展開される音楽の構造こそが、土地をまさに自分たちのものとして印づける行為になると考えているのである。

彼女の調査しているのは、マレーシアのタミヤ社会。タミヤの霊媒たちは、夢の中で、さまざまな精霊から、歌の旋律をうけとる。その旋律のかたちが、じっさいのパフォーマンスの場所ではほかのパフォーマーたちに受けわたされてゆくことになる。夢であたえられた旋律は、土地のかたちをなぞることになっていると、ローズマンはいう。旋律が繰り返されることによって、土地は、人々のものとして印づけられるのである。

しかしわたしには、よくわからなかった。音楽形式を象徴たらしめるその理屈が、である。つまり、旋律のかたちがどのように土地のかたちを喚起することになるのか、十分な説明がえられなかったような気がした。ローズマンはいう。じっさいのパフォーマンスにおいては、霊媒がうけとった旋律が、コーラスの人々にくぼられるという構造がある。そういった構造が、パフォーマンスにある種の力を与えることになる。そういった位置には、病人がおかれて、癒しがおこなわれることになる。

その具体的な説明だけでも、もっと時間が必要だったと思う。しかし、ローズマンは、「移り変わる景観」というタイトルのしめすゴールに向かって、さらに前にすすんだ。村におとづれる近代化のことにもふれたのである。外部社会からくるあたらしい人やものは、常に霊媒の夢というフィルターをとおって処理され、いわばタミヤ化されるということ。そして、そのことによって、あたらしい外部のものであったとしても、それが自分たちのものとしての土地を印づけることに役立つという議論である。しかし、具体例をしめした、もっと時間をかけた説明が必要だったと思う。

いっぽうのフェルドの、報告のタイトルは「声の知識」であった。ニューギニアのカルリ社会で作曲されたひとつの歌が、いかに熱帯雨林のさまざまな土地、それにまつわる情動を背景に構築されているか、そして逆に歌の構造が、こういう情動をどのように作りだしてゆくか、ということ論じたものであった。

講演では、1990年にカルリの女によってつくられたという歌の、具体的なテキストが指示され、解説がおこなわれた。テキストは鳥の視点から、いくつかの地名をつらねるかたちでつづられている。帰るべき家を見つけることができない鳥は、そのまま歌の作曲者の人生を暗示しているものである、とフェルドは指摘する。ひとつひとつの地名はまた、歌に暗示されている人生の要所要所での出来事を象徴するものとなっている。フェルドは次のようにまとめている。「名前の付けられた土地のつらなりをかぞえあげてうたうことが、聞き手を旅へとつれてゆくことになる。その旅は、土地の小川にそって、あるいは切れ目のない隣り合う土地から土地へと「流れ」てゆく旅である。歌におけるそういった「流れ」は、現実の土地を、人々へ、経験へ、記憶へとつなげてゆくための信号となる」。

彼の議論はいつも、音響の構成方法についての理念型、それにもとづく音楽・テキストの構成、その情動の喚起というつながりが、とてもはっきりした議論である。80年代のはじめ以来変わらない彼の説明方法は、構造主義的アプローチの王道をゆくものであって、わたしは好きだ。その見事さには、多くの聞き手が感服したことだろうと思う。

両者の報告をつうじて目を引いたのは、熱帯雨林という固有の環境的なセッティングがもっている圧倒的な迫力であった。もちろん、象徴人類学者としての彼らは、そういった環境がそこにすむ人々によってどのように処理されていたかを扱っているのだが、とにかく、熱帯雨林という素材の豊かさを、強く感じさせられた。きくところによると、最近、熱帯雨林の伝統的な音楽を研究する研究者の数があまりふえていないらしい。素材が豊かなだけに、残念なことである。

当日の司会は、広島大学の山田陽一氏。通訳は、国際日本文化研究センターに客員教授として滞在中の時田アリソン氏であった。

#### ✿研究活動ニュース✿

●3月15日(月) 14時～16時 国立民族学博物館で、「チュニジアの音楽・レクチャーコンサート」(入場無料)があります。出演は松田嘉子さん(ウード)、竹間ジュンさん(ナーイ)です。松田さんは昨年、サラーフ・マハディ著『アラブの音楽』を翻訳出版されました。現在、多摩美術大学美術学部助教授ですが、ウードの演奏家としても国際的に活躍されています。

聴講ご希望の方は支部事務局・水野まで、まえもってご連絡ください。

♣関西支部からのお知らせ♣

●役員の交代—今年度より関西支部の役員が交代しました。新役員は下記のとおりです。

(敬称略) (任期は2年間)

理事：久保田敏子(機関誌)、櫻井哲男(機関誌)、田井竜一(経理、機関誌)、

水野信男(支部長、総務、例会・公報)

参事：井口淳子(例会・公報)、井口はる菜(機関誌)、大坪紀子(例会・公報)、

澁谷由美(総務)、寺田吉孝(例会・公報)、福岡まどか(機関誌)、

藤田隆則(例会・公報)和田垣究(例会・公報)

地区委員：久野壽彦、高橋昭弘、安田文吉、網干毅、泉健、伊東信宏、岩田宗一、

志村哲、中川真、梁島章子、山田智恵子、岡田千里、片桐功、原田宏司、

山田陽一、松永健、松葉武実、宮崎まゆみ

●入会申し込み方法・住所の変更について

入会ご希望の方は、郵便切手80円を同封し下記の学会本部事務所へ入会案内・申し込み用紙をご請求ください。住所等の変更につきましても同事務所までお知らせください。

〒110-0001台東区谷中5-9-25 第2八光ハウス201号

(社)東洋音楽学会 ☎03-3823-5173 FAX 03-3823-5174

電子メール LDT01776@nifty.ne.jp

●支部定例研究会について

今年度も連続講座「伝承を考える」をつづけます。またそれとの関連で、地域の祭、芸能、イベント等の見学会も随時おこないます。次回の例会は、6月、9月、11月を予定しています。

●関西支部定例研究会発表申し込み方法・支部だよりについて

研究発表等は下記の事務局までお申し込みください。その際、発表の種別(連続講座、研究発表、資料紹介、研究演奏、調査報告など)、題目、使用機器、発表希望月、所属、氏名、連絡先を明記してください。支部だよりへのご意見や自由な投稿も歓迎します。

---

(社)東洋音楽学会関西支部

〒673-1494 加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学芸術系教育講座 水野

研究室気付 ☎&PAX 0795-44-2261 FAX専用 0795-44-2259

電子メール mizuno@art.hyogo-u.ac.jp